

【視察調査報告書】

| | |
|-------|---|
| 委員会名 | 都市環境委員会 |
| 派遣委員名 | 【委員】10名 梶原幸子委員長、安藤修三副委員長、日下部広志委員、小林秀司委員、美濃部弥生委員、鈴木基司委員、及川賢一委員、福安徹委員、相澤耕太委員、鈴木勇次委員 |
| 視察内容① | 日程 |
| | 視察先 |
| | 選定理由及び事業概要 |
| 委員長所感 | <p>岡崎市は、市の中心市街地を流れる乙川の水辺空間と岡崎公園周辺の都市空間を一体的に整備して回遊性を確保し、観光拠点となる賑わいの場を創出するため、国の「かわまちづくり事業」を活用し、「観光産業都市」の創出に向け、乙川の豊かな水辺空間を活かしたまちづくりを推進している。本市における中心市街地の活性化や水辺空間の整備について参考にするため視察を行った。</p> <p>経済の低迷や、税収の減少に高齢化の進展など、全国共通の課題を岡崎市も抱えている中で、「民間主導」の公民連携のまちづくりを進めている。</p> <p>中心市街地を流れる一級河川乙川リバーフロント地区のまちづくりを進める中で、占有については県の許可が必要であるが、事務局を岡崎市が務めるまちづくり協議会が窓口となり、占有許可・活用状況などを報告することにより、市が積極的に県に働きかけ、行政間での履行確保をするなど、ありがちな行政の壁を越えて民間力を活かせる企画が可能となり、活力あるイベントを繰り広げている。</p> <p>また、社会実験を通じて回遊性の検証を行っており、それが路線価の上昇にも繋がっているということであった。</p> <p>本市においては、新たなブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」をどう実践していくか、また、市民の憩いの場である浅川・多摩川の水辺の賑わいの創出に向けての大いなる参考事例となったとともに、まちの活性化について新たな局面を考えていかなければならないと感じられた視察となった。</p> |
| その他 |   |

| | |
|--------------------|---|
| 日程 | 令和2年(2020年)2月21日(金曜日) |
| 視察先 | 愛知県豊橋市 「バイオマス利活用センターの取り組みについて」 |
| 選定理由 及び 事業概要 | <p>豊橋市バイオマス利活用センターでは、生ごみ、下水道汚泥、し尿・浄化槽汚泥を集約し、メタン発酵により再生エネルギーであるバイオガスを取り出し、ガス発電のエネルギーとして利活用している。また、メタン発酵後に残った汚泥は炭化燃料に加工し、完全エネルギー化を実現している。本市の可燃ごみの約半分を占める生ごみの資源化、現在は稼働していない八王子バイオマス・エコセンターの参考にするため視察を行った。</p> |
| 視察内容 ② 委員長所感 | <p>ごみを資源として有効活用する取り組みとして、日本最大級のバイオマス利活用センターを整備した豊橋市では、全国的にも課題となっている生ごみを、し尿・浄化槽汚泥と混合させバイオマス発電として電力を生み出している。</p> <p>八王子市ではごみ処理基本計画において、「循環型都市八王子プラン」を策定し、ごみ減量化、資源化に取り組み、1人あたりのごみの排出量の少なさ自治体ランキングで1位に返り咲いたが、今後の課題はやはり生ごみの処理となっている。</p> <p>本市の「八王子バイオマス・エコセンター」は、周囲への臭気が問題となり、現在は稼働していないが、臭気問題等が解決した折には官民連携をしながら、豊橋市の市民とともに取り組む生ごみ分別収集も参考にし、循環型都市八王子を目指していくための新たなきっかけ作りとなる視察となった。</p> |
| その他 | <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |